

# 絵画に於ける「動き・動く」

---

脇田桃子















「動き・動く」の「動き」とは「物や事」つまり「対象」の動きであり、「動く」とは動いているその人の「意識」つまり主体の「動く意識」のことである。

私は、対象の「動き」と主体の「動く」という意識との両方が働いて、初めて主体的に動きを捉えることができるのだと考えている。視覚による外的に知覚される対象の動きのみではなく、自分自身の身体を通して知覚される内的で主体的な「動き・動く」が私にとって現実的な実感を伴う動きである。

人はお互いに相手の身体の「動き」への意識とそれと同時に、相手は相手で自分自身の身体の「動く」意識と、自分は自分で自分自身の身体の「動く」意識とをそれぞれ関係付けながら、お互いに動きをはかり合い、主体的に「動き・動く」を捉えている。

相手の身体と意識と、自分自身の身体と意識とのそれぞれの関係は「間」、「間合い」といった言葉で呼ばれる。「間」は「間が無い」「間を取る」「間に合う」などの言い方であらわされるように、時間的、空間的、価値的な意味が複合された概念である。時間や空間や価値は「間」として一体となっており、それを感じ取る人それぞれの身体感覚により伸び縮みする。そして、「間」として主体的に感じ取られた時間、空間、価値などは具体的な身体の動作となってあらわれる。相手の動作を捉えようとする事は相手の感覚を捉えようとする事であり、相手が感じ取っている時間、空間、価値を捉えようとする事である。

人はそれぞれに自分自身の身体が感取する「間」から他の「動き」を捉えようとし、自ら「動く」状態になると考えられる。その際、「動き」である対象を一方的にただ見つめ続けるということもなければ、主体として、ひたすら「動く」としてその場に在るということもない。つまり人は、「間」を捉え合い「動き・動く」身体として相互的に在るといえる。

私は、「動き・動く」として在る身体で「間」を感取し、主体的に「動き・動く」を捉え、また、それを描こうとしている。

145頁  
「自己を飼いなす」  
キャンバス、アクリル、木炭  
162.0×162.0cm  
2009年

146頁  
「日々心身を奏でよ」  
キャンバス、アクリル、木炭  
227.3×227.3cm  
2010年

147頁  
「感覚の間隔をはかる」  
キャンバス、アクリル、木炭  
194.0×194.0cm  
2010年

148頁  
「身体の綴り」(1/2)  
キャンバス、アクリル、木炭  
194.0×194.0cm  
2011年

149頁  
「身体の綴り」(2/2)  
キャンバス、アクリル、木炭  
194.0×194.0cm  
2011年

掲載頁  
作品名  
素材  
サイズ  
制作年